研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-52C		17-087	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

Obesity-related parameters and colorectal adenoma development.
肥満関連指標と結腸直腸腺腫の発症

執筆者

Kim TJ, Kim JE, Choi YH, Hong SN, Kim YH, Chang DK, et al.

掲載誌

J Gastroenterol. 2017 Dec;52(12):1221-1229. DOI: 10.1007/s00535-017-1319-0

キーワード	PMID
コホート研究、結腸直腸腺腫、疫学、肥満	28197803

要　旨

目的：

肥満に関連する体格指標や代謝性指標と結腸直腸腺腫の発症を最もよく関連付ける指標を見出すこと。

方法：

対象は韓国の Samsung Medical Center で内視鏡検査を含む定期健康診断を受診した 30 歳以上の者で、スクリーニング大腸内視鏡検査とサーベイランス大腸内視鏡検査を受けた 3,405 名であった。肥満指標は、ボディマス指数（BMI）、腹囲が測定され、代謝性指標としては、HDL コレステロール、血糖値、トリグリセリド、収縮期血圧などが測定された。飲酒については、非飲酒者を含む月 2 回以下の飲酒者群、週 1-2 回の飲酒者群、週 3 回以上の飲酒者群に分類した。統計解析には、ロジスティック回帰を用い、オッズ比（OR）と 95%信頼区間（95%CI）を算出した。

結果：

腹囲は、異時性の結腸直腸腺腫発症の高リスクと関連する唯一の肥満指標であった。男性では腹囲 85cm 以上、女性では 82cm 以上の場合、そうでない人と比較して、それぞれ OR（95%CI）は、1.31（1.09-1.57）および 1.31（1.09-1.56）であった。週 3 回以上の飲酒者群では、そうでない群に対して、OR（95%CI）は 1.33（1.10-1.62）であった。その他には、50 歳以上であること、男性であること、ベースライン時に 2 つ以上の腺腫の存在や、1 ㎝以上の腺腫の存在が異時性の結腸直腸腺腫発症オッズ比が高いことと関連していた。

結論：

腹囲は、BMI や他の代謝性指標と独立した、異時性直腸結腸腺腫の予測因子であった。